

国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回を支援する全国運動がスタート!

6・13大集会に1635名結集



国鉄闘争の火を消すな! 解雇撤回・外注化阻止!

6月13日、文京シビック大ホールを埋め尽くした1635名の熱気の中、「国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回を支援する全国運動」がスタートした。

全国金属機械労組港合同の中村吉政副委員長の司会で開会し、呼びかけ人である葉山岳夫弁護士が開会挨拶した。

新自由主義と対決する新たな運動を

●**動労千葉から田中委員長**が新たな闘いに向けた訴えを行った。

「24年にわたる国鉄分割・民営化反対闘争の結末がこれなのか。国鉄改革法の承認であり、JRに法的責任なしの承認でいいのか。そもそもこれは労働組合を闘わないものにかえるという、戦後の労働運動の歴史を画する攻撃だ。攻防の焦点は労働組合だ。

労働組合、労働者は団結して社会を動かすばらしい力を持つてはいるはずだ。この大運動は、新自由主義攻撃と対決し、この時代に通用する新しい労働運動をもう一回つくりあげたい。私たちの解雇撤回闘争はそういう闘いと一つのものだ。全国に巻き起こっている怒りの声を結集しよう」と訴え、会場から万雷の拍手が応えた。

呼びかけ人の訴え

5人の呼びかけ人が登壇し、この全国運動をよびかけた各々の思いを語った。

●**日本近代史研究者の伊藤晃さん**

全国運動は、社会の無数の運動が大きな力となってまとまっていくなか、かけがえのないものがある。

●**愛媛県職労宇都宮理委員長**

自治体労働者に大民営化、首切り攻撃が突きつけられている。動労千葉が切り開いた尼崎事故弾劾闘争や反合闘争を通して多くを学んだ。国鉄闘争を終わらせないことは全労働者にとって最後の砦といってもいいくらい大事な事

●**韓国労働運動史研究家の金元重さん**

国鉄闘争の意味を韓国労働運動の発展、苦闘と重ね合わせて見ている。民主労総ソウル本部の32人の指導者が全国運動への賛同を表明していることは1047名闘争への注目を示している。

●**法政大学弾圧裁判弁護団長の鈴木達夫弁護士**

北朝鮮への戦争が切迫し、

ただならぬ情勢。解決を喜んだという中曽根の分割・民営化にかけた野望を労働者の闘いによって打ち破ろう。

●**憲法と人権の日弁連をめざす会代表の高山俊吉弁護士**

前原国交相は、『国鉄改革の完遂に全力をあげる』といっている。闘う弁護士と闘う労働者・労働組合が一つになるときがきている。

さらに、三里塚反対同盟

北原鉱冶事務局長からの熱いメッセージ、元国労九州本部書記長手嶋浩一さんらのメッセージが紹介され、とめよう戦争への道!百万人署名運動の西川重則事務局長が連帯のあいさつを行った。

大恐慌情勢下で

労働運動再生の出発

6・13集会は、「4・9政府解決案」による1047名闘争解体攻撃を打ち破り、国鉄分割・民営化の反動的決着を許さず、新自由主義と対決する闘いの出発をかちとった。

動労千葉を先頭に、解雇撤回を貫き、反合理化・運転保安闘争路線で、大恐慌情勢下の階級的労働運動を作り出す闘いが開始されたのだ!

全国労働組合交流センター

【アドレス】 ikarinokoe50@yahoo.co.jp

東京都台東区元浅草2-4-10 五宝堂・伊藤ビル5階

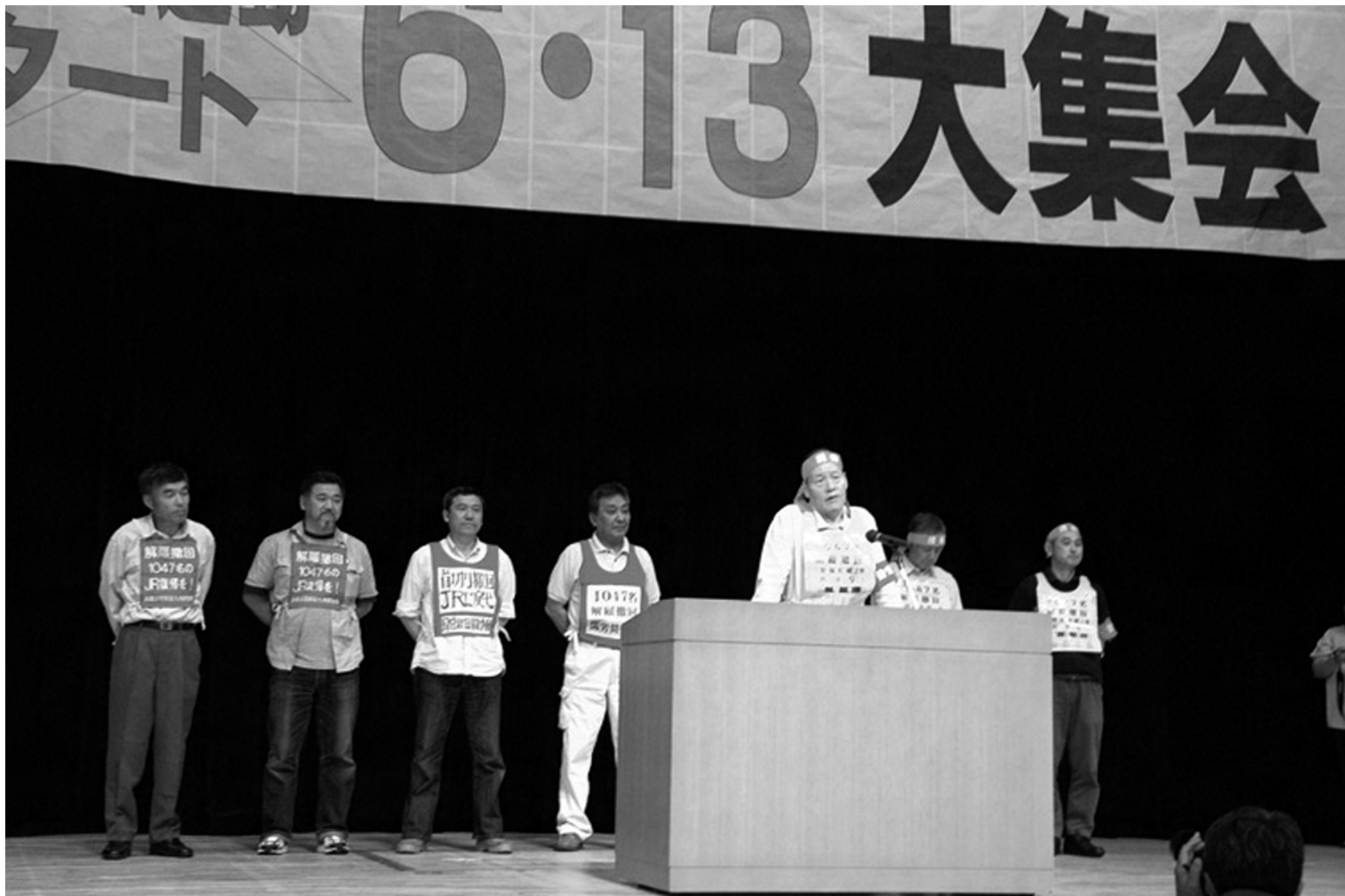
Tel 03-3845-7461 FAX 03-3845-7463

2010年6月17日発行

全国労組交流センターとは、総評が解散して連合・全労連がつくられた1989年に、労働運動の連合化と対決して階級的な労働運動をつくりだすために結成された組織です。国鉄分割・民営化と唯一ストライキで闘った国鉄千葉動力車労働組合(動労千葉)を中心に、産別やナショナルセンターの違いを超えて、闘う労働組合と労組活動家が集まって、闘う労働組合運動をつくりだすために活動しています。

「4・9 政府和解案」を絶対に認めない!

解雇撤回を貫いて闘う!



動労千葉争議団と国労闘争団員4人が熱烈に決意表明

会場にひととき大きな拍手が沸き起る中、動労千葉争議団3人と国労闘争団員4人が登壇した。「4・9 政府和解案」を許さず、解雇撤回を貫き、国鉄分割・民営化に反対し労働者の誇りにかけて闘う決意が表明された。

●高石正博さん（動労千葉争議団長）

資本に解雇されて金だけもらって解決なんて認めるわけにはいかない。動労千葉は当然和解の対象から除かれたが、それならそれでいい。われわれはフリーハンドになった。本当に納得のいく解決まで最先頭で闘う。

●中村仁さん（動労千葉争議団）

物販で全国を回り6・13の結果を訴えた。みなさん来てくれた。われわれは分割・民営化に対して、一人の首切りも許さない闘いを貫いて解雇された。われわれは資本と非和解だ。これが労働者の魂だ。原則を曲げずに闘う労働運動を作り出すために全国に物販を広げて下さい。沖縄の闘いと解雇撤回闘争は一体だ。

●中村俊六郎さん（動労千葉争議団）

みなさんにはお世話になっていますが、いよいよこれからが本当の正念場です。これからも全力で闘っていきます。

●成田昭雄さん（国労闘争団）

北海道から神奈川に来て力になってもらった。私の解雇撤回の気持ちは青年をはじめ多く労働者の気持です。分

割・民営化はすべての労働者への攻撃だった。前原国交相は二度と争うな、黙って国の言うことを聞け”と言っている。額に汗して働いたこともない人間が何を言うか。

●羽廣憲さん（小倉地区闘争団）

われわれの24年前の決意は何だったのか。不当労働行為違法行為を行ったJR資本を絶対に許さない。解雇撤回を貫けたのは共に闘う仲間がいたからだ。4人の団結を強め、拡大し、分割・民営化反対、解雇撤回までとことん闘う。

●小玉忠憲さん（秋田闘争団）

24年間、なぜ解雇されたか探し続けましたが、その理由が動労千葉の鉄運機構訴訟で明らかになりました。鉄道労連と資本が一体で解雇した。これを不当労働行為と言わずして何と云うのか。尼崎事故を起こしたのは誰だ！ 徹底的に人を減らし、乗客を殺してきたJR体制をぶっ飛ばすのが1047名闘争だ。青年労働者の未来を切り開く闘いだ。正義はわれわれにある！

●石崎義徳さん（鳥栖闘争団）

24年前に分割・民営化に反対して解雇されました。「政治解決案」の和解3条件はと

うてい許せない。国鉄労働者だけの問題ではない。この解決案をのむことはできません。旧国鉄と政府の不当労働行為責任を追究し続けることは、いま青年をはじめ全労働者が置かれている現実を変えていく闘いだ。そのためにもどんなに苦しくても闘っていく決意です。よろしくお願ひします。

職場から闘い、徹底的に組織しよう

集会は、動労千葉長田書記長が後半の司会を行い、呼びかけ人を代表して動労千葉を支援する会の山本弘行事務局長が「新たな全国運動の趣旨・目的と当面の課題」を提起した。

争議団・闘争団の決意表明の後、佐藤正和新小岩支部長のブラジル訪問報告、さらに決意表明が行われた。

最後に全日建運輸連帯労組関西生コン支部の高英男副委員長が「この闘いを孤立させないための武器は現場からの闘い以外にない。徹底的に現場を組織しよう」と閉会のあいさつ。動労西日本大江照己委員長の音頭でインター斉唱、団結ガンバローで終了した。